



晃陽

<目指す生徒像>

- たしかな学力をもつ生徒
- 豊かな心をもつ生徒
- 強い体力・気力をもつ生徒



令和7年度第2号

～生徒が安心して力を発揮できる学校～

学校だより 令和7年6月6日

宇都宮市立晃陽中学校長 河内 哲也

1学期がスタートし、2か月が過ぎました。4月からの環境の変化に緊張していた生徒たちも、元気よく、そして落ち着いた学校生活を送っています。体育祭においても、協力することや全力で取り組むことの大切さを学びながら、我々大人たちにも大きな感動を与えてくれました。そしてその約10日後には1年生が冒険活動教室。生徒たちは何事にも前向きに取り組んでいます。

いじめゼロ集会

本市立小中学校において、年2回「いじめゼロ強調月間」を設け、その中で「いじめゼロ集会」を実施しております。本校は5月21日（水）に、生徒会執行部を中心に集会を行いました。執行部から本校の現状等の問題提起の後、各学年から、いじめをゼロにするためにできることの発表と、生徒会長から今年のスローガン「STAND TOGETHER ～団結していじめをなくそう～」の発表がありました。互いへの思いやりあふれる晃陽中学校に高めていく気持ちを新たに集会でした。



ご家庭や地域の皆様へのお願い ～いじめの早期発見～

ここ数年、本校のいじめの認知件数は1桁をキープしています。いじめの少ない、よい学校だと喜びたいところではありますが、本当にそうでしょうか。学校長としては、いじめはどの学校でも起こり得ると考えています。この認知件数の少なさは、教職員や保護者などの大人が気付かなかったいじめが他にあったのではないかと危惧しています。

いじめをする生徒は、大人に「バレないように」いじめをします。大人にわざと気付かれるようにいじめをする生徒はいません。ましてや今の時代はSNS等、目につきにくい場所で悪口を書き込むなどの人間関係トラブルが多く発生しています。また、友人を「イジって」笑いを取る場面などにおいては、「イジられて傷ついた生徒」がその場の雰囲気悪くしないよう笑顔で対応すること多いため、その場合、「イジった生徒」は自分がいじめをしたことに気付かないものです。

これら目につきにくいいじめを早期発見するためには、子どもの元気のなさなどの「違和感」を学校・家庭・地域などの大人が察知し、情報共有することが大切です。いじめはどの学校にも起こり得ます。いじめゼロ集会や道徳の授業など、本校においても未然防止に取り組んでいますが、それだけでは不十分です。

学校・家庭・地域の大人が一体となって、昔よりもさらに目につきにくくなったいじめに対し、早期発見・早期解決に取り組んでまいりたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

体育祭



5月24日（土）、曇り空の下、暑さによる熱中症などの心配も、雨の心配もない絶好の体育祭日和の中、体育祭を実施することができました。1年生は笑顔で元気に、2年生は誇りと憧れをもって、3年生は胸を張って体育祭に参加することができました。ご来校・ご参観くださった保護者や地域の皆様、ご協力ありがとうございました。体育祭で生徒たちが得た、やり抜くことや協力することの大切さを、今後の学校生活に活かすことができるよう、指導してまいります。



カラー版は
晃陽中学校HP



冒険活動教室



6月3日（火）～5日（木）に、1年生の宿泊行事である冒険活動教室が実施されました。一緒に篠井小と富屋小5年生の面倒を見ながらの活動もあり、ついこのあいだ入学した1年生の、たくましく成長した姿がとても印象的でした。

